

彫刻ワーキング部会の検討状況

令和7年9月



1. 令和7年度の彫刻WG部会の検討スケジュール

- 令和7年度の彫刻WG部会における主な検討内容は、下記のとおりである。

会議名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
石彫刻工程 (概要)	彫刻（大龍柱など令和8年度引渡予定の製作物）												
	彫刻（礎石など令和7年度引渡予定の製作物）												
木彫刻工程 (概要)		金龍の埋木、触覚ヒゲ設置				台御差床の造作、補修等							
清書下図 (和紙資料)					清書下図（和紙資料）作製								
彫刻WG部会			⑫6/10								⑬予定		
彫刻WG部会 に係る 調査・監修等	4/10 監修 親柱上の 獅子			7/2監修 小龍柱 7/9監修 羽目石 ※メール 監修あり		9月 監修予定 小龍柱／ 親柱上の獅子／ 石高欄／ 持送石		進捗にあわせて 清書下図（和紙資料）の監修を実施予定					監修の み記載

開催日	会議名等	主な検討内容
R7.6/10	第12回WG部会	- 清書下図（和紙資料）作製について - 令和7年度事業の進め方について（製作の各段階を示す資料の検討の進め方／記録集検討の進め方）
R8.2月頃	第13回WG部会	- 製作に係る記録等の保存・活用について - 清書下図（和紙資料）作製について - 記録集について
適宜	その他調整・監修	作業進捗にあわせて適宜、調査・調整・監修を実施

2. 石彫刻の進捗状況（概要）

・ 石彫刻および石工事の進捗状況は、下表のとおりである。

番号	製作物名称	国への引渡期限	新たな知見	状況
1	礎盤（向拝の柱の礎盤、礎石含む）	令和5年9月頃	なし（前回踏襲）	国へ引渡し済
2	礎石（外周柱用/内側柱用/束柱用）	令和5年7月頃	なし（前回踏襲）	国へ引渡し済
2-2	礎石（西之廊下用/南之廊下用）	令和7年11月頃 ※	なし（前回踏襲）	材料調達済
3	大龍柱	令和8年6月頃 ※	ねじれの表現など	製作中
4	大龍柱の台石	令和7年12月頃 ※	なし（前回踏襲）	荒加工済
5	小龍柱	令和8年3月頃 ※	腹板の数、 ねじれの表現 など	製作中
6	石高欄及び登高欄 親柱上の獅子	令和8年4月頃 ※	獅子の顔及び体の向き、 獅子の造形 など	製作中
7	石高欄（親柱/束石/地覆石/羽目石/笠石）	令和8年4月頃随時 ※	なし（前回踏襲）	製作中
8	持送石	令和7年11月頃 ※	なし（前回踏襲）	製作中
9	地覆石	令和5年7月頃	なし（前回踏襲）	国へ引渡し済
9-2	地覆石（西之廊下用/南之廊下用）	令和7年11月頃 ※	なし（前回踏襲）	材料調達済
10	石階段（正面階段1、階段2,3,5,6,7,8）	令和8年1月頃随時 ※	なし（前回踏襲）	材料調達、荒加工済

※現場状況に応じて段階的に引き渡す

2. 石彫刻の進捗状況（製作中の製作物）

【No.3】大龍柱

- ・ 階段の登り高欄手前に設置される石彫刻。
- ・ 基本的に平成復元時の石膏原型を使用し、新たな知見のあるとぐろ巻部周辺のみ石膏原型を新規製作した。製作技術者へ引き渡し済み。
- ・ 2024.11/19の監修時に、阿吽でタテガミの彫り方（薬研か丸刀か）が異なるが、遺物を石膏取りした吽形に合わせることを確認した。



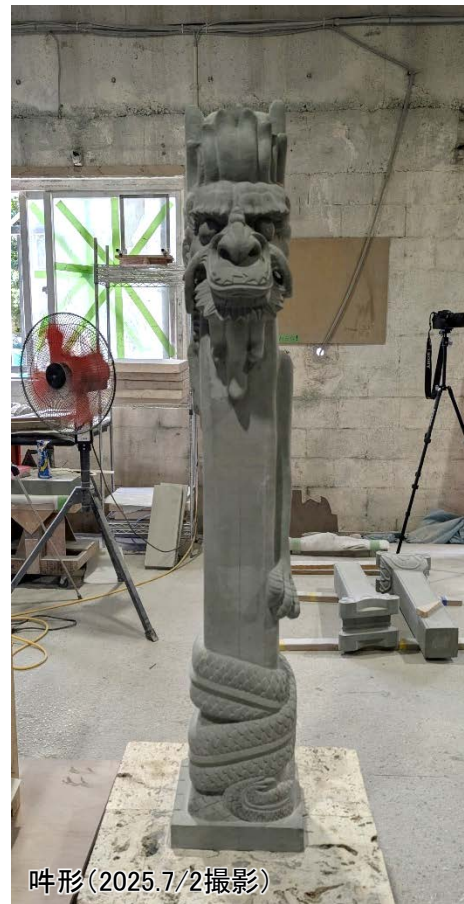
吽形（2025.7/2撮影）



阿形（2025.7/2撮影）

【No.5】小龍柱

- ・ 基壇の石高欄に設置される石彫刻。
- ・ 平成復元時の造形を基本としつつ、腹板の表現など新たな知見に基づき石膏原型を新規製作した。製作技術者へ引き渡し済み。
- ・ 2025.7/2に芸術系監修者による監修を行い、タテガミや顎鬚、腕の筋肉表現、眉間の瘤状の隆起などについて確認した。



吽形（2025.7/2撮影）



阿形（2025.7/2撮影）

2. 石彫刻の進捗状況（製作中の製作物）

【No.6】 親柱上の獅子・【No.7】 石高欄

- ・ 基壇及び階段に設置される高欄。
- ・ 高欄（親柱・束石・地覆石・羽目石・笠石）については、平成復元時の造形を踏襲することを基本とする。親柱上の獅子は、国から示された新たな知見や、彫刻WGでの議論を踏まえて、新たに石膏原型を12体（基壇6体、登り高欄6体）を製作した。
- ・ 親柱上の獅子は2025.4/10に監修を実施。
- ・ 石高欄の羽目石のデザインについて、埋蔵文化財センター所蔵の遺物や鎌倉古写真などを参考に、より往時に近づけるよう、監修を実施した。



親柱上の獅子監修の様子(2025.4/10撮影)



同左(2025.4/10撮影)



羽目石製作の様子(2025.4/10撮影)



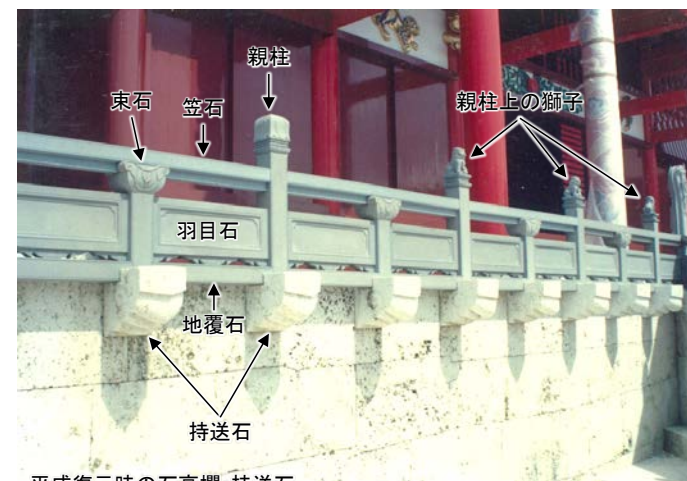
同左(2025.4/10撮影)

【No.8】 持送石

- ・ 基壇の石高欄に設置される石彫刻。
- ・ 平成復元時の造形の踏襲を基本とする。
- ・ 2024.11/19に、石高欄仮組みとともに一部確認。



高欄及び持送石(2024.11/19撮影)



平成復元時の石高欄・持送石

3. 木彫刻の進捗状況（概要）

・ 木彫刻および造作の進捗状況は下表のとおりである。

※新たな知見の欄の下線部は彫刻WGによるもの

番号	製作物名称	国への引渡期限	新たな知見	状況
11	唐破風 妻飾（火焰宝珠、蟄股、金龍、瑞雲）	令和7年1月頃	<u>龍の手足の火焰の形や蟄股の木取り・彫り方</u>	国へ引渡し済
12	唐破風 懸魚	令和6年6月頃	<u>蕪と鰭の構成（今回は反映なし）</u>	国へ引渡し済
13	入母屋破風 懸魚	令和6年6月頃	なし（前回踏襲）	国へ引渡し済
14	向拝 透欄間（牡丹唐草、獅子）	令和6年10月頃	なし（前回踏襲）	国へ引渡し済
15	向拝奥の彫刻物（牡丹に獅子・唐草）	令和7年1月頃	意匠に獅子も含まれていた等	国へ引渡し済
16	向拝奥の彫刻物（金龍）	令和6年12月頃	なし（前回踏襲）	国へ引渡し済 (2025.4月に埋木)
17	向拝奥の彫刻物（獅子）	令和7年1月頃	獅子の大きさ・姿勢	国へ引渡し済
24	2階 御差床 須弥壇（高欄含む）	令和6年10月頃	親柱・しまこ柱の形状	国へ引渡し済
25	2階 御差床 龍柱	令和6年9月頃	<u>胴体（腹板）のねじれ等</u>	国へ引渡し済
26	2階 御差床 羽目板	令和6年7月頃	<u>栗鼠の姿勢（漆器事例）</u> 、図案配置	国へ引渡し済
27	2階 天井額木	令和5年8月頃	<u>火焰宝珠の形態</u>	国へ引渡し済
28	2階 内法額木	令和6年9月頃	<u>火焰宝珠の形態、龍の足の向き</u>	国へ引渡し済
29	1階、2階 台御差床	令和7年12月頃	なし（前回踏襲）	材料乾燥中
30	国王専用階段（おちょくい）内部手摺	令和6年12月頃	なし（前回踏襲）	国へ引渡し済 (設置時引渡し部材有)
31	2階 外部窓手摺	令和6年12月頃	なし（前回踏襲）	国へ引渡し済

4. 清書下図（和紙資料）の作製について

- 第6回監修会議（2025.3/13開催）において、下絵をもとに製作を進めた製作物については、清書下図を作製することを確認した。
- 令和7年度事業として向拝奥の彫刻物（獅子）阿吽1対の清書下図（和紙資料）作製を行い、課題等を明らかにした上で、令和8年度にその他の下絵の清書を進めるものとする。
- 作製に係る技術者については、文化財等復元にかかる人材育成・技術継承を目的として、県立芸術大学絵画専攻日本画分野の准教授等を選定することを第12回彫刻WG（2025.6/10開催）で確認した。現在、作製に向けた材料等の調達・資料収集を実施中。

■清書下図（和紙資料）作製の方針 ※便宜上、製作に使用した「下絵」、清書した「清書下図」と呼び分ける。

第6回監修会議で
確認した内容

- 下絵をもとに製作を進めた製作物については、下絵の清書（和紙に墨書、原寸サイズ）を行う。
- 巻物化・保存箱製作・デジタルデータ化までを基本とし、製作物のサイズや作業状態に応じて詳細は適宜調整する。
- 清書およびそのデジタル化を行う理由は下記のとおり。
 - 下絵→粘土・石膏などの原型→部分試作→本製作など、彫刻作業を進めながら造形の検討を進めた経緯がある製作物については、作業段階毎に断片的に下絵の修正が行われており、最終的な造形が本製作のみでしか確認できない状況であるため。
 - 紙ベースの下絵は、サイズ感や位置関係などの把握が直感的で容易に行える。今後の製作時などに最終的な造形を容易に確認できる。
 - 清書したものをデジタルデータ化することで、清書した図の保管者以外も含め、容易に閲覧できる環境を整えられる。

■清書下図の作製対象一覧

番号	製作物名
11	唐破風 妻飾（火焰宝珠、蟄股、金龍、瑞雲）
12	唐破風 懸魚
13	入母屋破風 懸魚
14	向拝 透欄間（牡丹唐草、獅子）
15	向拝奥の彫刻物（牡丹に獅子・唐草）
17	向拝奥の彫刻物（獅子）
26	2階 御差床 羽目板
27	2階 天井額木
28	2階 内法額木

■令和7年度事業として向拝奥の彫刻物（獅子）を選定した理由

- 程よいサイズである（大きすぎない）。
- 阿吽各1枚（合計2枚）と程よい枚数である。
- 製作と並行して検討が進められた製作物であるが、完成品と下絵の違いが大きすぎない。
- 清書下図作製の技術者である県立芸術大学が彫刻を担当した製作物であるため、完成品の形状や、下絵と完成品との違いについて把握している。

